

1. 幼稚園の役割

- (1) 幼稚園の位置づけ
- (2) 幼稚園の目的
- (3) 幼稚園教育の目指すところ
- (4) 幼稚園教育の特徴

(1) 幼稚園の位置づけ

Q. 幼稚園ってなんですか？



A. 幼稚園は、子どもにとっての

はじめての学校です。



学校教育における幼稚園から小学校、中学校、高校以降の学校に続く発達と学びの連続性に、幼稚園教育も位置づけられています。

幼稚園教育は、この連続性において独自の教育のあり方をもっています。

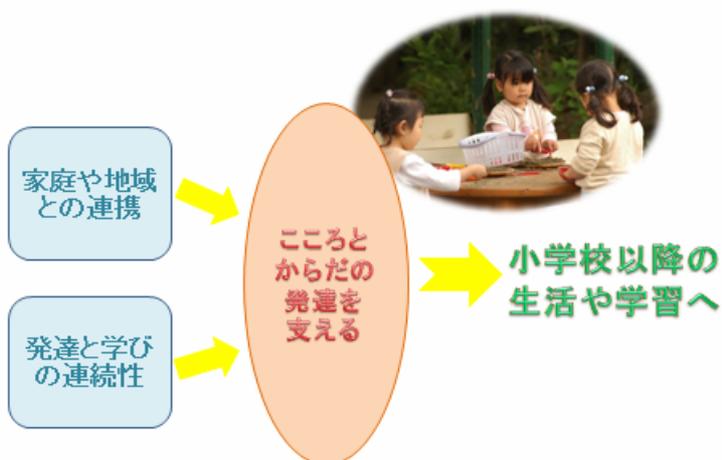
(2) 幼稚園の目的

Q. 幼稚園はなにをすところですか？

A. 小学校以降の生活や学習の基礎を培うところです。



(2) 幼稚園の目的



子どものすこやかな成長のために、家庭や地域との連携を基盤に、幼児の発達と学びの連続性をふまえ、よい環境を与えて心と体の発達を支えていきます。

このことを通して、小学校以降の生活や学習の基盤を培っていきます。

(3) 幼稚園教育の目指すところ

- ① 健康なこころとからだ
- ◇ からだづくり
 - ◇ 基本的な生活習慣



- ② 自立心と人とのかかわる力
- ◇ 自分でやってみたり、考えてみたりする。
 - ◇ 社会性や道徳性

(3) 幼稚園教育のめざすところ

- ③ 思考力のめばえ
- ◇ まわりへの興味と考える力
 - ◇ 数にふれる。



- ④ ことばの理解
- ◇ 話すこと
 - ◇ 聴くこと

- ⑤ 表現する力
- ◇ 豊かな感性
 - ◇ ささまざまな表現



(4) 幼稚園教育の特徴

Q. 幼稚園教育の一番の特徴は？

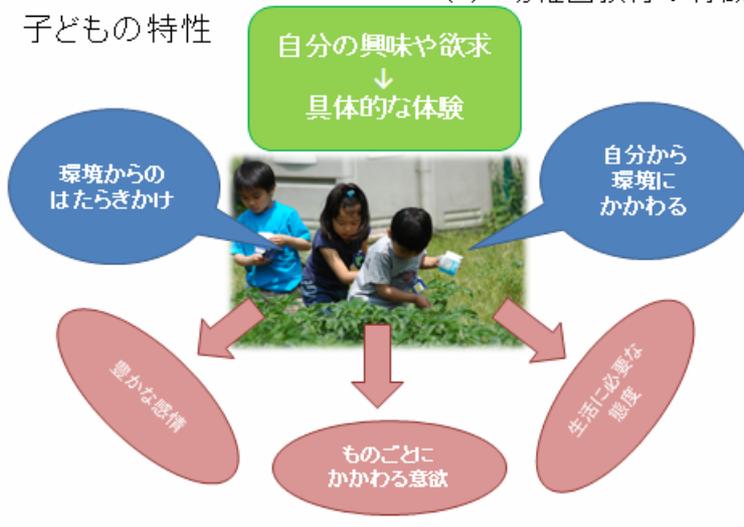
A. 環境をとおして教育していることです。

幼児期の教育 → 人格形成の基礎



幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っています。

子どもの特性 (4) 幼稚園教育の特徴



幼稚園では、環境を通した教育が行われています。

環境を通した教育では、子どもがまわりの環境からはたらきかけを受け止め、自分から興味をもって環境にかかわることによって活動を展開し、充実感や満足感を味わう体験が重視されています。

(4) 幼稚園教育の特徴

環境をとおして教育するとは…



幼稚園の環境は、教育のねらいの実現に向けた保育者の意図と計画にもとづいて用意されています。

(4) 幼稚園教育の特徴

園庭にいろいろな虫がいるわ。AちゃんもBくんも虫さがしに夢中ね。

くんは仲間に入りたそうだけど、なんだか入れないみたい。

テントウムシなどの虫をおく場所をつくって、みんなで話題にできる雰囲気をつくりましょう。

外での遊びを中心に生活の流れをつくりましょう。保育室には子どもの休める場所をつくりましょう。

子どもたちのつながりを見ながら、お互いの思いを伝えあうことも支えましょう。



子どもの遊びや生活の理解をふまえて、保育者は幼児の発達と学びの観点から環境を整えていきます。

(4) 幼稚園教育の特徴

遊ぶものや材料を用意して、あとは子どもまかせにする。

教師が子どもに教えこんだり、活動をおしつけたりする。

そうではなくて…

- 子どもたちは環境ふれて、どんなことを感じたり考えたりしているかしら。
- 子どもたちは、どんなふう遊びを進めるかしら。そのためには何が必要かしら。
- 先生も一緒に遊びながら、子どもたちが興味をもてるように言葉をかけましょう。など

環境を通した教育では、次の3つの点大切です。

- ・子どもが環境にどのようにかかわっているかを理解する。
- ・子どもの活動を見通して環境をつくりかえていく。
- ・教師も子どもの環境として、いきいきとかかわる姿を示す。

(4) 幼稚園教育の特徴

- ・ 幼稚園教育で大切にしていること
 - ① 幼児期にふさわしい生活
 - ② 遊びを通しての指導を中心に
 - ③ 一人ひとりに応じること



(4) 幼稚園教育の特徴

① 幼児期にふさわしい生活



- ・ 幼児が保育者に受け入れられているという安心感をもつこと。
- ・ 幼児が主体的に環境とかかわり、十分に活動すること。
- ・ 幼児が友達と十分にかかわって展開する生活。

この3つが幼稚園の遊びや生活では大切にされています。

(4) 幼稚園教育の特徴

② 遊びを通しての指導を中心に

子どもの成長に大切な経験

遊び = 子どもの学び



幼児は、遊びのなかで達成感、充実感、満足感、挫折感、葛藤などを経験しつつ、心身の調和のとれた発達の基礎を築いていきます。

(4) 幼稚園教育の特徴

③ 一人ひとりに応じること

発達



おおすじでは、同じような過程

一人ひとりの発達の姿はことなる

子ども一人ひとりの特性
(その子らしい見かた、考えかた、感じかた、かかわりかた)

子どもが抱えている発達の課題

にこたえていく指導



幼児は、一人一人の家庭環境や生活経験も異なっています。

このため、一人一人のものや人へのかかわり方、環境の受け止め方もさまざまです。

2. 幼稚園教育の実際

- (1) 教育の見通し
- (2) 遊びと生活をとらえる視点
- (3) 幼稚園教員の役割
- (4) よりよい教育にむけた評価

(1) 教育の見通し

Q. 幼稚園の教育は、
どのように進められているのですか？

A. 「幼稚園教育要領」にもとづいて、
計画的に行われています。

(1) 教育のみとおし

• 幼稚園教育要領

= 幼児がなにを、どのように養い、身に
つけるかについて、国が基準を示したもの。

生きる力の基礎となる
心情、意欲、態度



幼稚園教育では、特定の教科の知識
や技能ではなく、生きる力の基礎とな
る心情、意欲、態度を養います。

また、机とイスに座っての一斉授業
ではなく、遊びを中心とした生活をも
とに、環境を通した教育を行っていま
す。

(1) 教育のみとおし

- 幼稚園の生活を通して、
どのように心情、意欲、態度を育てていくか

その全体の見通し



幼稚園の建学の精神や教育の目標にもとづいて、入園から修了までの教育期間をとおした計画として、教育課程があります。

(1) 教育のみとおし



実際の遊びや生活をふまえて

年、学期、月ごとの計画

週、日ごとの計画

指導計画

指導計画は、教育課程にもとづいて、より具体的に教育のねらいや内容、環境の構成、教師の援助などを示したものです。

- さまざまな行事



幼児の生活にそくして
必要な体験がえられるように



それぞれの園の創意工夫

幼稚園の教育目標や地域の実態に応じて、それぞれの園で創意工夫を生かした教育課程や指導計画をつくっています。

(2) 遊びと生活をとらえる視点

Q. 幼稚園では、子どもの遊びと生活を
どのような視点からみるのですか？

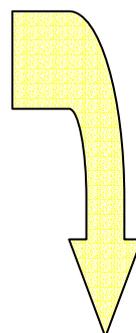
A. 5つの「領域(りょういき)」という視点
からみえています。

(2) 遊びと生活をとらえる視点

領域

- ① 心とからだの健康 **健康**
- ② 人とのかかわり **人間関係**
- ③ 身近な環境とのかかわり **環境**
- ④ 言葉の獲得 **言葉**
- ⑤ 感性と表現 **表現**

領域にもとづいた
指導のあり方について、
夏のあわおどりの
事例を見ていきましょう。



夏のあわおどり

5つの領域の観点から、一人一人の
子どもの活動を尊重しつつ、さまざま
な指導や援助が行われていきます。



幼稚園教育の「領域」は、教科のように決められた時間割で個別に授業として行われるものではありません。

幼稚園では、それぞれの「領域」にふくまれる事柄が相互に関連して達成されるように、具体的な活動にもとづいて指導がなされていきます。

(3) 幼稚園教員の役割

Q. 幼稚園の先生には、どんな役割がありますか？

A. 環境をつくる、子どもの理解者や共同作業者となるなどの、さまざまな役割があります。



保育者は、幼児一人一人を理解し、ともに活動しながら、発達や学びを支え促す指導、援助をしていきます。

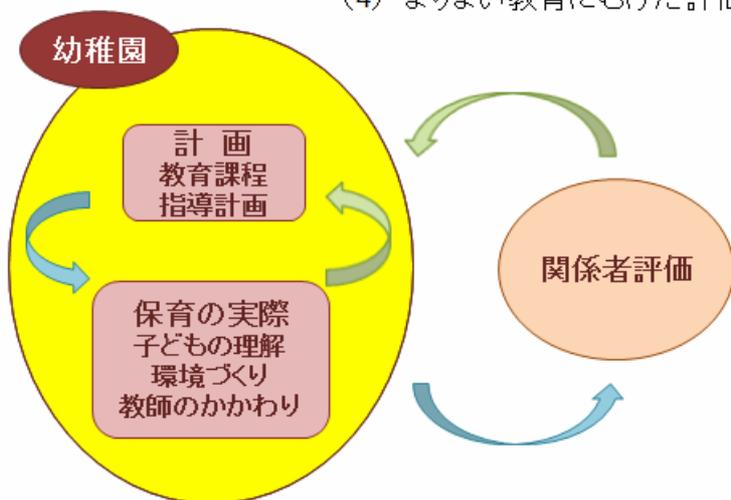
(4) よりよい教育にむけた評価

Q. 幼稚園の教育の評価は、どのように
行われていますか。

A. つぎの二つのやりかたで行われています。

- 幼稚園の教職員による評価
- 保護者や地域の方など関係者による評価

(4) よりよい教育にむけた評価



幼稚園の教職員による評価に基づいて、関係者評価が行われます。

関係者評価の結果を幼稚園にフィードバックすることにより、教育の改善につなげていきます。

3. 幼稚園における今日の課題

Q. 新しい幼稚園の取り組みには、
どのようなものがありますか？

A. およそ、次のようなものがあります。



3. 幼稚園における今日の課題

子育ての支援や預かり保育



家庭や地域との連携

障がいをもつ幼児の指導



地域の実態や保護者の要望に応じて、それぞれの幼稚園で独自の取り組みがなされています。



3. 幼稚園における今日の課題

保育園や小学校との連携

さまざまな情報の発信



…など

園の独自の取り組み

4. 幼稚園の運営について

Q. 幼稚園の運営や管理について、
おおまかに教えてください。

A. 次の内容についてみていきましょう。

- 組織づくり
- 安全や保健の管理
- 教員の研修
- 環境の整備